

『東京市政調査会館競技設計図集』

東京市政調査会 [編]

1923年 B5判／本文4頁図版55頁 図書番号OA-0056

1922（大正11）年1月、安田善次郎の遺志を継いだ安田家は、東京市政調査会の事業に寄与するため、「財團法人東京市政調査会設立者 男爵後藤新平」宛に当時の金額で350万円の寄付を申し入れた。同年3月、東京市政調査会（以下本会）は寄付の受諾を決定したが、この寄付にはいくつかの条件が付されていた。そのひとつが、「日比谷公園内東北隅に寄付金を以て公会堂を付設した会館を建設する」というものであった。

この会館建設のため、本会は著名な建築家8名（佐藤功一、田邊淳吉、中條精一郎、森山松之助、横河民輔、松井清足、中榮徹郎、葛西萬司）を指名選抜し、1等賞金1万円の「懸賞競技」として設計を依頼した。この依頼に対し各建築家より計18通りの会館設計案が提出され、審査の結果、工学博士佐藤功一の案が1等に選ばれた（2等田邊淳吉、3等中條精一郎）。

本書は、18通り計278枚の設計図面のうち、1等から3等までの3案に関する全図面と、選外となった15案の図面の一部を収録したものである。また、入選作には設計の方針や概要に関する設計者の解説が付されている。

1等に選ばれた佐藤は、「設計の方針」において、「調査會其の他の事務所用の部分と公會堂たるべき大講堂とを割然と分つ」ために建物の形を「丁字形」とし、事務所用入口の反対側に公会堂の入口を設けることが「最良の計畫なり」と述べている。対して2等の田邊は建物を「四方正面（四角形）」に設計し、「第一階は全部を展覽會場の用に供し、館の三方より公衆の出入を自由ならしむ」としている。3等の中條は、中央に中庭を配置することで建物を「事務用、公衆用の二區域に大別」し、事務用と公衆用の入口は別々に設けた。

これら3等までの設計案には、それぞれ建物の配景図、外観図、断面図、配置図、各階平面図が掲載されている。一方、選外については順位や設計者名を記さず、各案の配景図と平面図の一部のみを掲載している。

1923（大正12）年、本会は東京市長に対し建築敷地指定と建築認可の申請を行った。ところが監督官庁たる内務省から「現在でも狭く感じている日比谷公園に、公会堂を建てることは公園の機能から見ても賛成し難い」「議院の近くに政治集会も行える公会堂を建てるることは、治安の面から見て如何なものか」等の反対意見が続出した。このため認可が難航し、1925（大正14）年、「建築敷地は日比谷公園東南隅とする」等の条件付でようやく建築が許可された。1927（昭和2）年、警視総監より建築認可証が下付され、1928（昭和3）年5月に定礎式が行われた。

1929（昭和4）年10月に市政会館と日比谷公会堂は落成したが、建設にあたって佐藤が設計の見直しを行い、当初設計案に比べて公会堂のホールの形状や建物の外観などが変更された。

（井上学・市政専門図書館司書）